

公開・非公開の別

☒ 公開 ☐ 部分公開
☐ 非公開

令和 7 年度第 1 回浜松市母子保健推進会議 会議録

1 開催日時 令和 7 年 7 月 10 日（木） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 10 分

2 開催場所 浜松市口腔保健医療センター 講座室

3 出席状況 委員

[現地参加] 石井 廣重委員、大西 雄一委員、鹿野 共暁委員、小谷 友美委員、
齋藤 由美委員、杉浦 弘委員、本目 恵子委員、室加 千佳委員、
森園 直美委員

事務局 平野 由利子（健康福祉部医療担当部長）

板倉 称（健康福祉部保健所長）、小笠原 雅美（健康増進課長）、

田辺 雷太（健康増進課長補佐）、伊藤 梓（健康福祉部技監）、

仲谷 美樹（子育て支援課家庭支援担当課長）、

健康増進課職員 6 名、子育て支援課職員 1 名

オブザーバー 精神保健福祉センター職員 1 名

4 傍聴者 4 人

5 議事内容

- (1) 令和 6 年度 浜松市母子保健事業 事業実績報告
- (2) 令和 6 年度 浜松市児童福祉事業 事業実績報告
- (3) 令和 6 年度 産後ケア事業 実績報告
- (4) 産科・精神科・行政等の連携
- (5) 5 歳児健康診査事業について
- (6) HPV ワクチンの接種状況について

6 会議録作成者 健康増進課母子グループ 菅沼

7 記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 ☒ 有・無

8 会 議 記 録

定刻の午後 1 時 30 分に開会し、事務局から資料の確認、委員の出席数の報告、情報公開の確認、報道機関の取材と傍聴者の了承、次回会議の開催方法、精神保健福祉センター職員 1 名（オブザーバー参加）の紹介を行った。

（１） 令和 6 年度 浜松市母子保健事業 事業実績報告

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】委員の皆様のご意見が特にないようですので、次の議題に移ります。

（２） 令和 6 年度 浜松市児童福祉事業 事業実績報告

【事務局】子育て支援課より、資料をもとに説明。

【委員】発達障害者支援センター運営事業の相談件数が減少した要因は相談できるセンターが増加したという報告でした。お子さんは減少している、または発達障害者の方が増加していることを踏まえ、本当に相談件数は減少しているのでしょうか。また、増加した相談できるセンターの相談件数も浜松市が把握しているのでしょうか。

【事務局】発達相談支援センター「ルピロ」への相談件数の減少でございますが、児童発達支援センターや事業所が増加しており、障害保健福祉課の方で把握をしているところでございます。今回減少した理由として、そういった事業所への相談に行くことに加えて、P.30 表 61 をご覧いただきますと、特に減っているのが学齢期の相談数です。今までは、相談については全て「ルピロ」ということが多く、本当に相談が必要な方が相談できない、また多くの待ち時間を要するといった問題がありました。現在は、学校の方でアセスメントをしていただいて、「ルピロ」につなぐのか、別の相談先につなぐのか、校内で対応するのかといったことを精査していただきながらご対応頂いていることが要因と思っております。

【委員】ありがとうございます。必要な支援が行き届いていることが把握できてれば大丈夫かと思えます。

【委員】各年代の出生数との比較があった方がわかりやすいかと思えます。今後の報告書の作成時にご検討いただければと思います。

【委員】パパが育児参加していくといった時代の流れになっており、とてもよいことだと思います。行政ではパパの育休を進めていると思いますが、ただ育休を取ればよいといった印象があります。パパに対して具体的に何をやっていただきたいか行政の方で考えられていることを教えてくださいませんか。

【事務局】P.26 に子育て支援ひろば事業がございます。パパをターゲットとするため、一部のひろばで講習会を休日実施しております。このひろばでは、どんなふうに一緒に遊びができるのか、また他のお子さんを見ることで実際の子育ての中での子供の関わりの練習ができるようにといった意図でやっております。パパに対してのアプローチがより必要であることは感じております。

【事務局】P.1 の妊娠期健康講座事業において、はじめてのパパママレッスンが記載されており

ます。こちらは妊娠週数が20週からの初産の妊婦さんとその家族の方を対象に実施しており、ご出産前に参加できる教室になります。ご案内は親子（母子）健康手帳を交付した全ての妊婦さんに行っており、申込をしていただいた方の多くがご夫婦で参加していただいております。また、この教室は助産師会さんをお願いをして実施しているものですが、男性と女性では産後のイメージが違うといった印象があります。この教室において、実際に赤ちゃんが生まれ親になることへの具体的なイメージを事前にもっていただくような内容を盛り込んでおります。

初産婦の方が全員参加いただいていない状況ですが、赤ちゃんが生まれる前にイメージを持っていただく場が必要であると感じておりますので、より力を入れていく必要があると考えております。

【委員】はじめてのパパママレッスンだけでは全ての内容を盛り込めないため、そこをきっかけに子育て支援ひろばに出向いてくださいとお伝えしています。少人数で時間もしっかりと取れるひろばでは、お産の話やその時にどんなふうにパパが寄り添えばよいかといったことを具体的にお話しています。パパが参加しやすいように、土日開催も年々増やしている状況です。参加できない人たちに対してどうするかといった課題がありますが、そういった方はこんにちはマタニティ訪問でパパの育休取得やパパにどういことをしてもらいたいかを妊婦さんにお聞きし、パパに直接伝えることが大事であるとお話しています。また、こんにちはマタニティ訪問ではパパの同席を希望する方がいらっしゃるため、その場合は極力ご希望に沿う日程で調整しており、できるだけ家族で赤ちゃんを迎えてもらうようにとお伝えしています。ただ、経産婦さんの声で一番多いのは、企業さんに対してパパの育休はありがたいが、定時で返してほしいということです。夕方の保育園のお迎えが一番大変なところだと思います。上の子の保育園の迎えは、新生児を連れてしなければいけないため、そこのフォローをパパ、または祖父母など家族を巻き込んで子育てできるといいね、といった産後の具体的なイメージを持たせるためのこんにちはマタニティ訪問でもあると感じています。また、2人で生活を整えていくことを考えたときに、どう役割分担するか、また女性は気づいてほしいという気持ちを持っていますが直接伝えないとわかりませんと講義の中ではお話ししています。

【事務局】保健師も育児支援等で保護者やそのご家族と関わる機会が多くありますが、どうしてもお母さんに目線がいきがちになると思います。より広い視点で活動していく必要があると大変勉強になりました。ありがとうございました。

【委員】大変興味深い議論だと思いました。ありがとうございます。育休だけではなく、お母さん・産婦さんたちの声を反映していくことが重要であると感じました。

（３） 令和6年度 産後ケア事業 実績報告

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】委員の皆様のご意見が特にないようですので、次の議題に移ります。

(4) 産科・精神科・行政等の連携

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【オブザーバー】出生数は年々減少しておりますが、支援を必要とする妊産婦さんは逆に増えている実感があります。背景にメンタル疾患や発達特性をお持ちであったり、虐待を受けてきたというような逆境体験をお持ちだったりケースとしても重たくなっていると感じます。浜松市は医療も充実しており、産科・精神科・地域の連携のためのこれまでの取り組みで、スムーズな流れはできておりますが、精神科の予約がいっぱいで、かかりたいときにすぐ予約ができないという状況もありますので、事務局より先程ご紹介いただきました色々な取り組みを通して、支援者の対応力の向上を図りまして、妊産婦さんのお気持ちを丁寧に受けとめながらも適切にアセスメントをして、本当に医療が必要な方を医療へつなげて、その他の方は地域で支援をしていけるように、こちらもお手伝いしていけたらと思っております。

【委員】直近3年間における全国の妊産婦の自殺者数が160人程度との報道をお見かけしました。浜松市での事例はあるのでしょうか。

【事務局】別所管課にて把握しているものと思いますが、こちらで数値は分かりかねます。申し訳ありません。

【委員】せっかくすばらしい事業されているので、産後1年までの間の自殺者数の数値も出していただけるとわかりやすいかと思います。

【事務局】検討させていただきます。ご意見ありがとうございました。

(5) 5歳児健康診査事業について

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】委員の皆様のご意見が特にないようですので、次の議題に移ります。

(6) HPVワクチンの接種状況について

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】P.40の全国との接種率の比較ですが、統計のとり方は一緒ということでよろしいでしょうか。行政の方が非常に一生懸命やっけていただいているので、おそらく全国よりも高いと思っております。(1) 定期接種対象者は全国よりも高いということで納得できます。しかし、(2) キャッチアップ接種対象者は、緊急促進事業があった平成9年から平成11年までを見ると、全国は80%を超えていますが、浜松市は60%前後です。

【事務局】統計のとり方についてですが、接種率の統計は全国と浜松市で同様でございます。キャッチアップ接種につきまして、全国は自治体から全てのデータを拾い上げているため全ての接種状況が統計に反映されておりますが、浜松市は浜松市内での接種数しかわかりません。そのため、他の自治体で接種した方が浜松市に転入してこられると、前自治体での接種情報がわからないため、そこが反映できておりません。すべての方の接種率、接種状況を反映させると、全国以上の数字になると想定しております。

【委員】定期接種だけの時代では、接種率の計算が違っていたためその影響かと思い質問いたしました。今のお話で20%以上変わるということが疑問に思ったところです。また、もう1点として、昨年度にイオンモール等で集団接種をしていただきました。非常によい試みで、すぐに予約も埋まって大きなトラブルもなく終わったと聞いております。ありがとうございました。集団接種に来られた方々の2回目・3回目の接種が完了したかが今年度のデータで分かると思いますので、教えていただければと思います。

【事務局】集団接種に来られた方々の2回目・3回目は改めて確認させていただきます。

【委員】集団接種は今年度やっていないのでしょうか。

【事務局】庁内調整の結果、今年度は実施しない予定でございます。

【委員】イオンモール等で集団接種というのは、全国に先駆けた事業ですばらしいと思います。ぜひ来年度の予算要求を検討していただけたらと思います。

(7) その他

【委員】全体を通してご意見がありましたらお願いいたします。

【委員】こんにちはマタニティ訪問ですが、令和7年度から制度が変わった影響で訪問を拒否される方の増加を懸念しています。対策等についてありましたらお願いいたします。

【事務局】ご指摘の通り、制度が変わった影響によりこんにちはマタニティ訪問の拒否を危惧しておりましたが、妊婦さん同士の口コミ等の影響のおかげか、逆にいつ訪問に来てくれますかといったお問い合わせをいただいております。地区担当の保健師や助産師会さんのご意見や現在の状況を鑑みても、そこまで影響はないと考えております。

【委員】制度が変わる前もこんにちはマタニティ訪問を受けないと給付金をもらえないと妊婦さんは思っていない印象です。親子（母子）健康手帳交付等で事前に周知してくださっているので、こんにちはマタニティ訪問を受けるものとして大分定着してきていると感じます。

【委員】令和7年4月以降に妊娠届出を行った妊婦さんには案内変わっていますよね。

【事務局】おっしゃるとおりです。しかし、親子（母子）健康手帳交付時には、一番最初に妊婦さんとお会いする機会として非常に重要であるととらえております。出産後だけではなく、妊娠中の事業や妊婦健診の受診券制度等、必要な情報を丁寧に説明させていただいております。引き続きこんにちはマタニティ訪問についても、給付金とは異なる制度となってしまいましたが、色々な不安を相談・払拭できる機会のある場として私たちも非常に重要視していることを説明していきたいと考えております。ご指摘ありがとうございました。

【委員】昨年度の本会議で妊婦歯科健診の大切さを周知するためのチラシを作成していることをご報告しましたが、チラシができて上がりました。ぜひ生まれてくるお子さんのためにも、妊婦歯科健診をぜひ受けていただきたいと思っております。周知にご協力いただける団体さんがおられましたら、資料提供いたしますのでよろしくお願いいたします。

【委員】それでは事務局より連絡事項がありましたらお願いいたします。

(8) 事務局より連絡事項

【事務局】1点連絡事項を申し上げます。次回の会議である令和7年度第2回の開催につきまして、2月頃を予定しております。会議の開催日が決まりましたら改めて委員の皆様にご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上となります。